

2026年1月18日午前10時30分

降誕節第4主日 主日礼拝

司会 伊藤普史
奏楽 金井文子

讃美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあいさつ)

前奏

招きのことば 詩編 149:1-5

讃美歌 14「たたえよ、王なる」 一同

交読詩編 100:1-5(P.113/109)

祈り 司会者

《関東教区お祈りカレンダー》

武蔵豊岡教会 飯能教会 小川教会

(主の祈り)

讃美歌 195「めくれた種」 一同

聖書 旧約:エレミヤ書 1:4-10(P.1172)

新約:マルコ 1:14-20(P.61)

メッセージ『主の招く声』

祈り 川上 盾 牧師

讃美歌 516「主の招く声が」 一同

献金 一同

(献金感謝の祈り)

信仰告白(インドネシアの信仰告白①) 一同

頌栄 28

祝禱 川上 盾 牧師

後奏

報告・紹介

<招きのことば> 詩編 149:1-5

ハレルヤ。新しい歌を主に向かって歌え。主の慈しみに生きる人の集いで賛美の歌をうたえ。イスラエルはその造り主によって喜び祝い、シオンの子らはその王によって喜び躍れ。踊りをささげて御名を賛美し、太鼓や堅琴を奏でてほめ歌をうたえ。主は御自分の民を喜び、貧しい人を救いの輝きで装われる。主の慈しみに生きる人は栄光に輝き、喜び勇み、伏していても喜びの声をあげる。

《1月礼拝当番》 伊藤普史 徳島恵子
村上直子 齋藤眞理子
横田喜一 横田こずえ

《今週の集会・行事》

- ◎ 本日礼拝後 カレー食堂 ご利用下さい。
- ◎ 本日 15:30 群馬地区教会協議会 於・高崎教会 「兼牧について」(新潟・三条教会の皆さん)
- ◎ 19日(月) 牧師、群馬地区教師会(安中)
- ◎ 20日(火) 牧師、育心こども園
- ◎ 23日(金) 牧師、共愛学園理事會
- ◎ 24日(土) 9:30 会堂清掃 E 組

《次週の主日》

- ◎ 主日礼拝 10:30
- メッセージ『近くにある神の言葉』
- 聖書:旧約:申命記 30:11-15(P.329)
新約:マルコ 1:21-28(P.62)
- 讃美歌 15(1-5), 201, 432, 29
- 交読詩編 29:1-11(P.34/30)
- 司会:植松みよ 奏楽:徳江由利
- ◎ CS午後礼拝 13:00(スタッフ会議)
- ◎ 群馬地区委員会 16:00(ZOOM)

《報告》

◎ 本日、地区教会協議会「兼牧について」

全国の教会で、牧師数の減少と、教会の財政的な逼迫により、ひとりの牧師を招聘することが難しい事例が増えています。群馬地区も例外ではなく、「一教会・一牧師体制」の維持が難しくなっています。そんな中で、ひとりの牧師が複数の教会を牧会する「兼牧」のスタイルが今後は求められていくことでしょう。「代務」は次の牧師を迎えるまでのショートリリーフですが、「兼牧」はその状態が続くこととなります。今回、新潟地区より、実際に兼牧での教会活動をしている三条教会から牧師・信徒を招き、兼牧の実際について聞き、語り合います。前橋教会は迎える側になることはまだしばらくはないと思いますが、送り出す側になることは十分に考えられます。この課題を「他人事」ではなく「わが事」と捉えていきましょう。協議会にはどなたでも参加できます。15:30 より高崎教会にて。

◎ 関東教区 雪掘りツアー (2/18-22)

十日町教会を拠点に雪掘りで汗を流し、「人のために働くこと」「共に生きること」を学ぶ、有意義なプログラムです。詳しくは掲示板の案内をご覧ください。

《消息》

◎ 松井忠男さん・・・体調を崩しておられますが、入居中の施設で静かにお過ごしです。神さまの見守りのうちに平安が備えられますようお祈りします。

《先週の集会》

	ジュニア	シニア	おの大人	計
CS朝礼拝	5	3	12	20
	礼拝堂	オンライン		献金
主日礼拝	45	24		21,450
婦人会例会	14			

《メッセージ》「水を通して救われる」

出エジプト 14:15-22、マルコ 1:9-11(1月11日)

▼昨年のクリスマス、二人の方が洗礼を受けられた。洗礼式では水を用いる。水にはものを洗い流す作用がある。洗礼には「罪を洗い流し清められる」という意味合いが込められている。▼しかし、一たび洗礼を受けたら、あとは真つ新しい清い人生が始まるか、というところ、多くの人はそうではない。洗礼を受けた後も何度も過ちを繰り返す...それが生身の人間だ。その度に「立ち帰る原点」として洗礼が求められるのだと思う。結婚式での誓約が、その後の結婚生活の中で常に立ち帰る原点であるように...。▼ところで、洗礼という儀式には「罪が洗い清められる」というのは別の意味も込められているのでないか...。そんなことを今日の箇所は示してくれる。旧約は出エジプト記。モーセに率いられたイスラエルの民が、エジプト軍に海沿いまで追い詰められた時、海の水が清られて道が出来、そこを通過して救われたという「海の奇跡」が語られる箇所だ。ここで救いのモチーフ、それは海(水)を通して救われる...というものである。それは「試練や苦難を潜り抜けて」という意味が込められている。▼私たちひとりひとりの洗礼に、どれほどの試練や苦難があったのか、人それぞれであろう。相当な決意を抱いて受けた人もいれば、「何となく、自然に...」といった経験もある。しかし洗礼を受け始めたそれぞれの信仰生活は、順調で恵まれた歩みばかりではなかったはずだ。「洗礼を受けた...にも関わらずなぜこんな思いを...」そんな経験をした人もいるだろう。しかしその試練や苦難の荒波に飲み込まれ沈み切ってしまうのではなく、「そこを潜り抜けた所にきっと救いがある」と信じていることができる...「水を通して救われる」とは、そういう経験を表すのだと思う。▼新約はイエスの受洗の場面。マルコ・ルカではその様子が淡々と描かれるが、マタイではバプテスマのヨハネとのやりとりが語られる。「私の方があなたから洗礼を受けるべきなのに...」と戸惑うヨハネに、「今は止めないで欲しい」とイエスは言われた。▼これから始まるイエスの公生涯...それは楽しい...旅というよりは、苦難や試練が待ち受けているに違いない...そんな旅の予感があった。覚悟を持って出発するにあたって、イエスにも「水を通して救われる」という実感を得たい!という願いがあったのではないだろうか。▼同じ苦しみを経験を持つ者同士の間には、強い絆が生まれることがある(「同じ釜の飯を食った仲間同士」など)。イエスにとってヨハネから洗礼を受けることは、「同じ水を通して救われた者同士」—そんな絆を、これから共に歩む仲間たちとの間に感じるものであったのかも知れない。▼洗礼を受け礼拝に集う者同士の間には、「同じ教会に通う仲良し」というだけのものではない。山あり谷あり荒波が押し寄せる人生において、「私には「水を通して救われた仲間」がいる」と思えること。それが大きな心の支えとなって共に歩むことができるのだ。